

第8節 技術・家庭

第1 本資料の活用について

1 作成の基本的な考え方

- (1) 中学校学習指導要領、埼玉県中学校教育課程編成要領、同指導・評価資料、「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料の趣旨を踏まえる。
- (2) 中学校学習指導要領における技術・家庭科の目標は、

生活の営みに係る見方・考え方や技術の見方・考え方を働かせ、生活や技術に関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 生活と技術についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。
- (2) 生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなど、課題を解決する力を養う。
- (3) よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

である。さらに、技術分野、家庭分野の目標は、それぞれ以下のとおりである。

【技術分野】

技術の見方・考え方を働かせ、ものづくりなどの技術に関する実践的・体験的な活動を通して、技術によってよりよい生活や持続可能な社会を構築する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 生活や社会で利用されている材料、加工、生物育成、エネルギー変換及び情報の技術についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付け、技術と生活や社会、環境との関わりについて理解を深める。
- (2) 生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、製作図等に表現し、試作等を通じて具体化し、実践を評価・改善するなど、課題を解決する力を養う。
- (3) よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

【家庭分野】

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 家族・家庭の機能について理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活の自立に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。
- (2) 家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなど、これからの生活を展望して課題を解決する力を養う。
- (3) 自分と家族、家庭生活と地域との関わりを考え、家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

技術・家庭科及び技術分野、家庭分野それぞれの目標の達成のために、3学年間を見とおして、題材の配列工夫し、効果的な学習指導ができるよう年間指導計画を作成するようにする。資

質・能力の育成に当たっては、生徒が一連の学習過程の中で「生活の営みに係る見方・考え方」や「技術の見方・考え方」を働かせ、知識を相互に関連付けてより深く理解するとともに、生活や社会の中から問題を見いだして解決策を構想し、実践を評価・改善して、新たな課題の解決に向かう課程を重視した学習の充実を図ることが考えられる。また、実習等において、ICTを効果的に活用するなど、学習過程を工夫して、主体的・対話的で深い学びを実現するために、本資料を参考としていただきたい。

2 指導計画作成の留意事項

編成要領（編P125-126）で示された「指導計画作成に当たっての留意すべき事項」との関連についても本資料で示している。

- (1) 「特別な配慮を必要とするなど課題を抱えた児童への指導」の視点
- (2) 「主体的・対話的で深い学び」の視点
- (3) 「教科等横断的」な視点
- (4) 「社会に開かれた教育課程」の視点
- (5) 「道徳教育の充実」の視点
- (6) 3学年間を見通した全体的な指導計画
- (7) 各分野の各項目に配当する授業時数及び各項目の履修学年
- (8) 題材の設定

3 活用に当たっての配慮事項

○ 本資料で取り上げた実践事例は、ICTを活用した指導の一例である。本資料を参考にし、各学校の実態に応じて、指導計画を工夫し、その特性を生かした指導を行っていただきたい。

○ 各学校においては、生徒の家庭生活の状況、生活経験の有無、地域の特色などにより、生徒の生活や社会に対する興味・関心、学習意欲、思考の仕方、身に付いている知識や技能などは様々であることから、内容に関する生徒の実態を的確に捉え、学校、地域における行事等との関連を図るなど、題材の設定を工夫するよう配慮していただきたい。

○ 小学校における学習を踏まえるとともに、高等学校における学習を見据え、他教科等との関連を明確にして、系統的・発展的に指導ができるようにしていただきたい。

○ 各内容の各項目に配当する授業時数及び各項目の履修学年については、生徒や学校、地域の実態等を考慮し、各学校において適切な授業時数を配当するとともに、3学年間を見通して指導内容を適切に配列することが大切である。

【掲載追加事例】

(技術分野)

【事例9】 ICT端末を活用して、3DCADとARを用いた問題の解決の事例

【事例10】 AI学習モデルとビジュアルプログラミングを組み合わせた課題解決の事例

【事例11】 ICT端末の効果的な活用を通じた、統合的な問題解決を実現する指導の事例

(家庭分野)

【事例12】 学習内容を効果的に関連させるよう題材構成を工夫することにより、生徒が主体的に学ぶ事例

【事例13】 様々な側面から考える場面を設定し、課題解決に向けて主体的に学びを深める事例

【事例14】 ICT端末を活用し、意見や考えを収集し、共有、可視化を効果的に行った事例